

## 海外研修 5 日目

3 月 13 日 快晴

本日も日差しが差し込む天気、日中は 28°C を予想。本日は南クイーンズランド大学へ赴き、交流予定です。St. John's Anglican College より約 40 分かかるため、早朝 7:30 集合となりました。St. John's Anglican College の専用バスで向かう前に翌日 14 日に参加する St. John's Anglican College の演劇クラスとコンピューター技術研究クラスの必要なグループ分けも行いました。

全員今日も大きな笑顔、元気な姿を見せてくれています。

予定通り、7 時 50 分バス出発。バス車内でのおしゃべりは止まりません。皆それぞれ、ホストファミリーでの出来事や現地での体験を語り合っています。そして溢れんばかりの笑い声も止まりません。

8 時 40 分、南クイーンズランド大学に到着。

### ◆南クイーンズランド大学

(University of Southern Queensland=UniSQ) 大学は 1973 年に設立され、2023 年には権威あるタイムズ-ハイヤー-エデュケーション(THE)世界ランキングで上位 301 から 350 大学にランクインした教育におけるグローバルリーダーとして認定された大学です。クイーンズランド州トゥオンバ市内のメインキャンパスをはじめ、スプリングフィールドキャンパス、そしてこのイプスウィッチキャンパスと 3 つのキャンパスを持ち、オンラインによる遠隔地教育にも力を入れている大学です。在籍する全校生徒数は約 2 万 8,000 名、農業と環境学 (農業工学、環境工学、環境保護学)、サイエンスをはじめ、芸術、人文学、航空学、ビジネス、教育、工学、IT-情報メディア、法学、看護、心理学-社会福祉、測量-建造環境、視覚-舞台芸術の学部があり、合計約 700 のコースを持つ総合大学としても有名です。また海外からの留学生のためのプログラムは学生研究者や専門家にとって英語力を高めるユニークな機会で様々なプログラムを提供しています。

3 つのキャンパスのうち、今回はイプスウィッチ-キャンパスを訪問しました。大学到着後は、AJWCEF (オーストラリア日本野生動物保護教育財団 理事長) の水野さんが出迎えてくださいました。水野さんは岐阜県可児市出身で獣医学博士であり、クイーンズランド大学の客員上級講師をされている方ですが、南クイーンズランド大学でも顧問もされている関係でお見えいただくこととなりました。

医学系が強い大学であることから緊急医療士 (救命士) や看護師、医師などを目指す方が多く学んでおり、そのような服装をした学生が、砺波高生の目の前を過ぎて行きます。

### 9:00 キャンパスツアー

国際部の Meg さん、Elizabeth さん、Steve さんと現地で学ぶ学生 (Student Ambassador) の 2 名が合流し、キャンパスツアーがスタートしました。図書館内には、緑の施設が多く植物園のような大きな木もあり、非常に空間を重要視したつくりになっていました。この図書館を見学した際、生徒の中には、「砺波高校にも欲しいなあ」と呟いていた生徒もいらっしゃいました。構内には大きなスポーツジム、大きなグラウンド設備、CT や MRI を備えたメディカルセンター、セミナー会場等がありました。キャンパス内をまわった際にも、5 人のオーストラリア人達と色々歩きながら生徒様と日常会話や自分が進むべき道、自分が勉強したいコースなど話題が多岐に渡り積極的に会話もしていました。

キャンパスツアー終了後教室に移動し、1 つのゲームをしました。そのゲームの名前は、“Two Truths and a Lie” というもので、全員が紙に 1 つの嘘と 2 つの本当のことを書いた後、発表する生徒が選抜され、その生徒が皆さんの前で発表した内容が嘘か本当か? を当てるゲームでした。発表を行った生徒は小さな

コアラや鉛筆などの文具を貰いました。砺波高校の生徒様はその発表する姿勢もとてもしっかりしており、大きな歓声が上がったシーンでした。

#### 10:00 AJWCEF による SDGs セミナー

※コアラの危機、野生動物活動について（日本語 PPT スライドを見ながら）

※水野さんには大学到着時に伺ったオーストラリアでの大学の話など、グローバル教育の話をキャンパス見学前に少しいただきました。その話に感銘を受けた生徒からの希望もあり、コアラ保護の話と合わせて大学の話も聞きたいという声から、水野様にお願ひし、講演の内容を一部変更して対応して頂くこととなりました。

#### ◆コアラ保護とその実情について

- 1.オーストラリア大陸の話からスタート
- 2.オーストラリアの野生動物とその現状について
- 3.約 70%がオーストラリアの固有種であること
- 4.種の絶滅危険性について

→タスマニアンタイガー、ウォンバット、タスマニアンデビルなど、絶滅危惧種についての対策

#### 5.コアラとその生態(生物学)について

→オーストラリア野生保護についての考え方や野生動物保護の草の根活動についてのお話を聞きました。改めて SDGs に基づいた地球温暖化対策、森林伐採がどのように生態系と関わっているのかなど詳しく学べました。

コアラの生態は？

- 1.クイーンズランド一帯に生息区域について
- 2.コアラの現状（置かれている環境）について
- 3.コアラが減少している原因について

→クリミジア、レトロウィルス、RNA ウィルスなど細菌について。

→人間が捨てた釣り針やビニールなどのゴミによる被害を受けている現状。

→道路に出てしまったコアラが交通事故に遭うというアクシデントケース。

◎これらに対応するために、野生動物専門病院の設立も行ひ、保護活動（診療費は国の給付金）を行っている。

→平均 1 日あたり 10 頭ぐらひのコアラが死んでいる現状に大きな危機感を抱いている。大きな保護のためには森林が必要である。合わせて森林を守るといふことは地球温暖化対策にもつながっていく。そして最も大切なことは人間との隔離政策か、共存（共生）か？若い世代の皆さんによく考えて欲しいと語られました。

水を飲まず、1 日 20 時間以上寝るコアラの生態を詳しく伺ひました。赤ちゃんの時から成体になるまでのお話も興味深く、生徒は聞き入っていました。

#### ◆大きく違ひ日本の大学とオーストラリアの大学考え方について

#### ●ユニバーシティーは何でもあるイメージ

→すべての学部が存在するといふのがオーストラリアの大学で、この南クイーンズランド大学は医学が非常に盛んな大学となっています。

→入学試験がオーストラリアではないのも特徴。

→オーストラリアでは弁護士、医師、獣医師なども国家試験はありません。ただし、大学で学んでその資

格を大学が発給するため、かなりそのクリアーバーは困難に設定されます。日本では国家試験があるので、試験をクリアした人の責任については政府が関係してきますが、オーストラリアでは大学が責任をとるため、卒業についてはとても厳しくしているのも特徴です。また、日本で取得した資格は日本でしか使えませんが、オーストラリアで取得した資格は英国圏、すべての国で使うことができます。

→高校の2年生から3年生の総合試験成績+統一試験をオーストラリアでは行い、その成績を計算する公式に当てはめて、その年の学生に対して順位をつけるシステム。例えばその年に50,000人の学生がいた場合、1番から50,00番までの成績がつけるというシステムになっています。その順位で自ずと進める大学への道が決定します。

→以前オーストラリアはOpoと言うシステムを採用していましたが、3年前ほどにEitaというシステムで点数をつけるように変更されました。

●オーストラリアの大学ではもうすでに40%位は社会に出ていた経験のある方、あるいは家庭を持たれている方が学んでいる。

→赤ちゃんを連れて受講する姿も見えます。すでに大人である(中高年者)大学生も多い。

→転職を目指して入ってくる方が多い。日本でも少しずつ増えてきているとは聞いているが、オーストラリアでは入学試験がないため、怖がらずに大学に入ることができ、ランクアップをして次を目指すことができる。つまり成績次第で自分を変えることができる。

●クイーンズランドの大学は、世界大学ランキング100でもトップテンに入るレベル。そのレベルをもっているのが今回訪問している南クイーンズランド大学となります。日本には600以上大学がありますが、トップ100に入っている大学は東京大学と京都大学だけです。しかし、オーストラリアにある57大学のうち7校がトップ100に入っているといわれています。その理由としては国際化が進み、海外からの留学生が多いからと考えられています。オーストラリアの学生数55,000人に対して留学生は18,000人ぐらいとなっているため3割強が留学生です。日本の大学からオーストラリアの大学に編入する人もいます。日本の大学が落ちてしまったのでオーストラリアに来る人もいます。多くは学士課程をとって大学院から進んでくるパターンが多いです。色々調べてみることも大切です。

最後に、私が皆さんに伝えたいのは言葉ができれば、英語ができれば、かなり世界を変えられること、広くなること。言葉があれば壁が取れるということです。

わからないことは教えて差し上げられますが、英語力(リーディング、スピーキング、ライティング、リスニング)はこの4つが大切です。英語力だけは教えてあげられない。自分自身の努力しかないのです。

最後の水野さんの言葉には多くの生徒が感銘を受けていた様子が見えました。

コアラ保護の話のあと、オーストラリアの大学の話については予定外でしたが、グローバル教育の観点から考えると非常に良い機会であったと感じました。また、オーストラリアの大学や教育のお話は生徒の多くがそのお話を聞き入り、何かしらのインスピレーションを貰ったような気がします。

11:00 水野さんのセミナー終了。

11:05~Uni SQ 大学大使とのセッション。

※4名の大学生大使と一緒に4つのグループに分かれてコミュニケーションセッションが行われました。各グループで自己紹介、オーストラリアでの日常会話を主にスピーキング能力を高めるアクティビティです。

各グループで30分ほど話したのち、4名の学生大使はグループを入れ替わり、他の生徒との会話も楽しみました。オーストラリアの学生側がシャッフルされたことでまた新しい会話も生まれていました。砺波高生達はそれぞれに積極的に質問をし、時には大きなアクションも交えながらそして好きなアニメの話

や日本文化の話でも盛り上がり、すべての生徒が会話を楽しんでいた姿が印象的でした。UniSQ 交流会終了後、全員で記念撮影も行い、最後に握手を交わして別れる姿も印象的でした。その後はキャンパス内で昼食をとり、バスにて St.John's Anglican College に戻りました。

戻った後は ESL クラスにて身体を動かすゲーム形式（ペアリングゲームやシューズタワーゲーム）の英会話を交えた内容を Derick 先生と行いました。